

学力向上に効果のある取組事例

国東市立安岐中央小学校

取組の具体

◆安岐中央小スタンダードの徹底

- [伝え合い]を支える…/学習規律・人間関係づくり 考えをもつ場・交流の場の設定
- [自分の考えをもつ]…子どもの思考にそった課題の設定 ワークシート・思考ツール等、考えをもたせる工夫
- [進んで伝え合う]…効果的な学習形態の工夫 子どもの意見をつなぐ支援の工夫

○セルフチェック

- ・毎月1回、教職員による振り返りを行う。
- [つかむ][もつ][広げる][振り返る][個別の支援]の5項目を4段階で評価し、研究主任が集計・分析をして改善点を周知する。

○互見授業

- ・1ヶ月に2名程度、互見授業を行う。学年部で1名以上の参観をする。本時案を配布し、参観者は6項目のチェック項目と感想欄を設けた観察シートを記入し、授業者にフィードバックしている。

○単元テストの結果の共有化

- ・テストの共通集計ソフトに入力し、児童名入りの分布表をファイルに綴じる。個別のつまづきを職員間で共有し、指導に活かしている。1ヶ月に一度管理職も確認をしている。

◆複数の教職員で指導

○よつばタイム

- ・週に1回、各学年とも複数体制で放課後の時間帯に補充学習や宿題のやり直しに取り組んでいる。わからなかったところがわかるようになり、学習への意欲づけに役立っている。
- ・児童が職員室に行き、教職員に「かけ算九九」を聞いてもらう。合格サインで意欲づけをする。

◆外部団体のサポート

○親子ふれあい週間

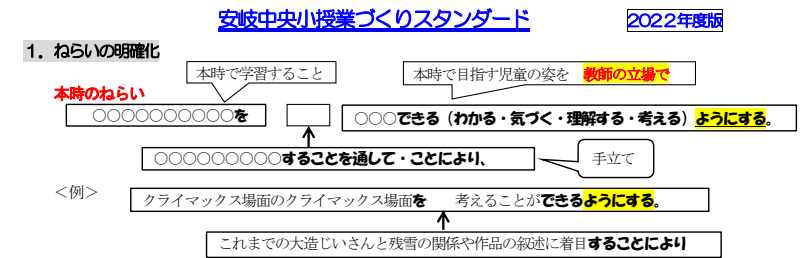
- ・毎月1回親子で宿題等に取り組む活動を実施。取組状況を主幹教諭が集計・分析し家庭に還流している。親子で取り組むことで、宿題の提出状況や学習の質・自尊感情等が向上している。

○ぐんぐんタイム

- ・週に1回、担任を含む複数体制で、朝の帯時間にドリル学習に取り組んでいる。丸付けは、保護者や地域のボランティアの方がしてくださっている。その間、担任は個別にきめ細やかな指導ができています。

○学びの教室

- ・教職員OBが、希望者を対象に毎月3回放課後に学習指導をしている。既習事項を中心に、力をつけてきている。



2. 授業の流れの明確化

①単元の流れが児童に見える手立てをとる。(学習活動の見通しを持たせるため)

②本時の展開

個別の学習の困りに応じた支援を記述する。(具体的な児童を想定)

学習過程	学習活動	時	指導及び支援	個別の支援
導入 (5分)	○課題を把握し、本時の活動や解決への見通しがもてる。 Point A 解決意欲を促す課題の設定		Point C 評価計画をふくむ単元の指導計画 ○本時の学習の流れの提示 ○題材との出会わせ方(導入)の工夫をする。 ・これまでの学習内容とのつながりを意識させる。 ・興味、意欲、関心が続くような提示の仕方を工夫する。	・課題が把握できていない場合は図を示す。(併用)
本時の展開 (15分)	○課題を解決するために自分で調べたり考えたりする。 《自己決定》		○自分の意見を持ち、ノートに書く時間を確保する。 ・考えの根拠となるところははっきりさせる。 ・困った時には意思表示(挙手)をさせる。 ・考えるための手助けになる資料や具体物・ヒントカードなどを準備しておく。 ○隣の席の人や小グループで意見交換するのも効果的である。 ○机間巡視により子どもの意見を把握し、意見の出させ方を考える。	・ノートに自分の考えをけないときはセントカードを提示、声かけをする(併用)
振り返り (5分)	○調べたり考えたりしたことをもとに、意見を発表したり聞いたりして、自分の考えを広げたり深めたりして、問題を解決する。 《共感的な人間関係》		○隣の席の人や小グループ・全体などいろいろな意見交換の方法を取り入れる。 ○話し合いが機能するように工夫する。 ・発表した事項を整理し、考えの類似点や相違点がわかりやすいように、板書をする。 ○意見交換をしながら、思考を深めさせる。 ○子どもの意見をつなぎ合わせる支援を行う。 ○小グループの話し合いの流れを提示する。	・発言できないときは、声かけをし発言を促す。(併用)
まとめ (5分)	○対話や協働により自分の考えの深化・拡充をはかり、まとめをする。 《自己存在感》		子どもの思考に補さぶりをかける。 結論へと導く発問。	
振り返り (5分)	○学習を振り返る。 Point B 学びを深める振り返りの充実		まとめ (課題と対応したまとめをする。) ○子どもの意見をもとにまとめる。 ○構造化された板書にまとめを明示する。 ○まとめは子どもの言葉で書く。	
振り返り (5分)			○振り返りの視点を明確にし、学びを振り返り、深めさせる。 《現在》学習のプロセスや成果を振り返る。 《過去》日常生活や既習事項と関連づける。 《未来》次回の学びにつなげる。	

